

エホバの証人の教理信条について、対話して行くのに何が必要かは、私がいつも考え続けている事です。これは自分にとってのリバビリの一環であるのかもしれませんが。

彼らが一番大切にしている事は何か。それは、ものみの塔研究かも知れませんが、やはり一番根底に有るのは、神のみ言葉である聖書だと思います。その一番大切なものが改ざんされているのに、やりきれない思いと怒りが湧き上がる思いで今はいます。

そこで、新世界訳聖書を使ってエホバの証人と同じ土俵に立って対話し、彼らが信じているものが、いかにまやかしかを知ってほしいと思います。

証人が奉仕、とか家庭聖書研究でよく使うものに、エホバとイエスの事を、社長と秘書を例にして説明します。エホバ神が命じて秘書であるイエスが行うという構図で説明をします。私は約二十年間研究生の立場にいました。証人になりきれず他の人に教えた事はありませんので、あくまでも自分の受け取った主観を元に書いていますので元証人の方とはずれがある事と思いますがあしからず)

エホバの証人(研究生)は、御言葉、聖書は、絶対正しく間違いの無い物と思い一字一句信じています。本当はものみの塔の教理かも知れませんが。

この信条をしっかりと受け止めた上で、社長と秘書の関係が成立するか考えてみたいと思います。

以後は新世界約聖書で行います。私の思い、感想は、新改訳聖書、ならびにN牧師のJWTCでの講義その他、多くの先生方や元先生の方々から学んだ事に基づいています。

新世界訳聖書

エレミヤ三二(二十七)

ああ、主権者なるエホバよ！あなたご自身があなたの大いなる力と伸ばされたみ腕とによつて天と地を造られたのです。このすべての事もあなたにとって殊更く正しいことではありません」

エレミヤ二七(五)

わたしは、わたしの大いなる力と差し伸べた腕とによつて地と人間と地の表にいる獣とを造り……

イザヤ四四(二四)

あなたを買い戻す方、あなたを腹の時から形造つた方エホバはこのように言われた。わたし、エホバはすべてのことを行ない、独りで天を造り伸ばし、地を押し広げている。誰が私と共にいたか。

ヨハネ(一)

初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。

ヨハネ(二)

この方は初めに神と共にいた。

ヨハネ(三)

すべてのものは彼を通して存在するようになり、彼を離れて存在するようになったものは一つもない。彼によって存在するようになったもの

ヨハネ(四)

は命であり命は人の光であった。

ヨハネ(一六)

神の代理者として遣わされた人が現れた。この名はヨハネといった。

私の見解

エレミヤ二七:五―三二:二十七

エホバご自身の大いなる力と伸ばした腕とによつて天と地、人間、獣を造つたとあります。

エホバの証人は聖霊は神の活動力だと教え通すので大いなる力とは、聖霊のことでしょうか。そうすると聖霊は神ご自身と言えます。

イザヤ四四(二四)でも、エホバは独りですべての事

を行ない、天と地を創造したといわれています。

私は脱会后、司会者と対話しましたがその方は

霊的なものはエホバが造られ、その他のものはイエスが造られたのです。Hさん惑わされないで下さい」
といいました。

その時は、K先生と一緒にしたのでそれ以上の会話はできずに終わりましたが、傍らにイエス 御子、言葉)がいて秘書に命じて造らせたとこの聖句は言っているのでしょうか。

ヨハネ(一)言葉は神であったと有りますが、この司会者から以前キリスト教の人達はここから神であると言いますが、言葉は神ではなく、神性を帯びているのだ、なぜなら、これには冠詞がなくなり文字で書かれているのだと教えました。

新世界訳聖書は巧妙に改ざんされて読む者の思考を惑わすものだとびっくりしました。この所など、何度も読んでいたのに気付きませんでした。じっくり考えてほしい所です。

言葉とはどういうものでしょうか。思い・感覚・物質・音・空気・風、みえるものもみえないものもすべて言語化されてこそ他に伝えることができるものだと思います。言葉とは神様のお考えを表現し、人間に伝える神ご自身そのものと言えます。

創世記一 (二) 初めに神は天と地を創造した。とあります。初めに造られたのは言葉ではなく天と地です。
ヨハネ一 (二) 初めに言葉があった。

この言葉があったのは、ギリシャ語では未完了形ですとあり続けるという意味を持つ言葉で書かれている事を、JWT C の講義の中で学びました。

又、コロサイの聖句を考えたいと思います。

コロサイ一 (二五) 彼は見えない神の像であって全創造物の初子です。

コロサイ一 (二六)

なぜなら 他(一)すべてのものは、天においても地においても、見えるものも、見えないものも、王座であれ、主権であれ、政府であれ、権威であれ、彼によって創造されたからです。

他(一)すべてのものは彼を通してまた、彼のために創造されているのです。

ものみの塔は、一 (二五) から全創造物の初子です。この所からイエスは生まれなかった時があったと説明しています。

初子とはプロトコスという語で最初に造られたもの。長男が生まれたものという意味があるそうです。長男というのは相続権を持つということが言えるので当時のこの社会では聖書が書かれた当時の相続権を持つ者という意味にたられるのが、一番スムーズに意味が通じると言えます。

コロサイ一 (二六)は なぜなら という言葉が始まっていますが、なぜなら という語は、理由を表す時に使う言葉なので一番一六節の意味がスムーズに通じるとN牧師から学びました。

又、ギリシャ語聖書によれば 王座、主権、権威、政府 新改訳では支配) は彼によって創造された」と書いてあり、通して」との文は入っていません。これらのものはすべて神様の物で彼のために創造されているのです。他(一)すべての物は彼を通して創造されたと、通して」を使って意味の受け取り方をコントロールしている訳し方をこれ又行なっています。

又コロサイ一 (二六) から 「一」が使われていますが、私の手元にある新世界訳聖書の九二九ページには1重の「一」角カッコは、そこに挿入された語が訳文の意味を明確にするための補足がある事を示しています。と書かれています。

「一」で挿入された 他(一)を入れずに読んだらどの様に受け取り方が変わるのでしょうか。考えながら読んでください。たとえ、ものみの塔の論理に百歩ゆずったとしても、王座、主権、政府、権威をイエスに造ってもらってエホバはそれを受け取り与えられたものなのか。☹️ これらは見えないものにしても見えるもの物質は彼によって創造されたのか？

先に書いたエレミヤ二七:五でもわたしは、わたしの大いなる力と差し伸ばした腕とによって地と人間と地の表の獣を造ったと書かれています。

この様に考えていくと、ものみの塔の論理は全く成立しない。と思います。

創世記一 (二) 神の活動する力が水の表をいきめぐっていたのです ㊦ザヤ四四 (二四) を思い出してください。(

創世記一 (三) それから神は言われた。光が生じるように。」すると光があった。

以後1章全体は神様の言葉によってすべてが創造されて行く様子がわかります。(ブル一 一 (三))

創世記一 (二六) 次で神は言われた。わたしたちの像にわたし達と似た様に人を造り・・・とあります。

この所 神は言われたの所 私が今持っている新世界訳の持ち主であった某エホバの証人は ㊦エスに言った」とメモ書きがしてあります。

わたし達と複数形になっている点について新世界訳聖書の注解では、 (二) 御使い達との合議 (三) 威光を表わす複数

形 (二) 三位一体の父、子。聖霊の神の本質の表れと見る。この解釈は聖書信仰の立場から特に尊重されてきた。ヨハネ一四 (二三) だれでも私を愛する人は、わたしの言葉を守ります。そうすれば、わたしはその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

(二) の解釈が妥当と思われると書いてありました。私もそう思いました。

聖書全体は神を擬人化して表現し、神様の御意志を人間に伝えるものだと思います。屁理屈を言うなら、わたしたちの像、われわれの像) と複数をモデルに人を造られたのなら何人かの人間が創造されたはずですが造られたのはアダムは一人です。そしてアダムは、意志、言葉、能力、それらのものを持っていた、これは神様の像をいただいているのだと思います。ですが神ではないので一人ではだめなので助けてである女が必要だったのではないのでしょうか。

まだまだ書きたいことはありますが以上の様な事から、社長と秘書での構図は成立しないと私は思います。

次にエルサレムの崩壊はBC六〇七年の点を考えたいと思います。

崩壊とは広辞苑で調べてみました。建物や組織などがくずれ、こわれる事」

エルサレムという都市が崩壊するとはどの様な出来事なのでしょう。

Ⅱ列王記二五章からその悲惨な状況が読み取れますか、状況を思いながら想像しながら読んでいると本当に泣き悲しみ、断食をする。という人達の気持が伝わって来ます。

新世界訳聖書

Ⅱ列王記二五 六) そして、第五の月、その七日それは、すなわち、バビロンの王ネブカドネザル王の第十九年であったが、バビロンの僕護衛のためネブザラダンがエルサレムに来た。

Ⅱ列王記二五 九) そして彼は、エホバの家と王の家とエルサレムのすべての家を焼いた。すべての大いなる者の家も焼いた。

Ⅱ列王記二五 (二) まではエルサレムのエホバの家のさまざまな物が取り去られていく様子がわかる。

二五 (二) (二四) はユダに残された貧民がゲタルヤにより統治される様子がわかる。

Ⅱ列王記二五 (二五) ところが第七の月に王族の子孫のエルシヤアの子ネタヌヤの子イシユマエルは100人の部下と共にやって来てゲタルヤを打ち倒したので彼は死んだのである。また、ミツパで彼と共にいたユダヤ人とカルデア人たちをも打ち殺した。

)

私の見解

ゼカリヤ七 (二) さらに王ダリウスの第四年の第九の月 (つまり) キレウスの四 (三) にエホバの言葉がゼカリヤに臨んだ。

ゼカリヤ七 (二) 万軍のエホバの家に属する祭司たち、また預言者たちに語ってこういった。

わたしは、これまで、ああ幾年になるでしょうか、ずつとしてきましたように第五の月に物断ちを行なって泣き悲しむべきでしょうか」

ゼカリヤ七 (四) すると、万軍のエホバの言葉が引き続きわたしに臨んでいった。

ゼカリヤ七 (五) この地のすべての民、また祭司たちに言うように、第五の月また七の月にあなた方が断食を行なって泣き叫んだ時しかもそれは七十年に及んだが (その時) あなた方は本当に、わたしに、このわたしに対して断食を行なったのか